

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表 (令和6年度)

法人名	社会福祉法人 足寄町社会福祉協議 会	代表者	星崎 隆雄	法人・ 事業所 の特徴	利用者に対して、家庭的な環境と医療・介護連携の下で、入浴、排せつ、食 事等の介護その他の日常生活上の世話及び機能訓練を行う事により、利用者 その有する能力や意向に応じ、「通い」、「宿泊」、「訪問」のサービスを柔軟 に組み合わせて提供し、在宅で自立した日常生活を営む事が出来るように支 援する事を基本方針とします。
事業所名	足寄町高齢者等複合 施設 むすびれっじ	管理者	國見 孝		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2	1	3		1	0		2	1	10

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価 の確認	- 職員への改善計画の周知徹底を図ります。 - 認知症研修や日頃の介護ケアの振り返りを行い介護員のスキルアップを図ります。	- 事業所自己評価からスタッフ全員が自己評価に取り組んでいる事を確認しました。 - 直接職員に意見を聞いてみたい。 - スタッフが改善計画を立て、目標に向かって真摯に取り組んでいる姿勢が伺える。	前回の改善計画に対して取り組んだ内容だけでなく、問題点についても記載されており、わかりやすい。	- 各種研修や日頃の介護ケアの振り返りを継続し、介護員のスキルアップを図ります。 - スタッフ間や利用者・家族とのコミュニケーションを図りながら改善計画の達成に努める。

B. 事業所の
しつらえ・環境

- ・事業所の環境整備を継続して、整理整頓に努めます。
- ・利用者の事故防止、居心地良い生活環境を整えます。

- ・「入りやすい・居心地がいい」について、今後もより一層取り組んで頂きたい。
- ・事業所の環境は良好だと思われる。

- ・利用者と家族がゆったりとくつろいで交流できるスペースがあれば良いと思う。

- ・事業所内の環境整備を継続して、整理整頓に努めます。
- ・利用者の事故防止、居心地の良い生活環境を整えます。

C. 事業所と地域のかかわり	・コロナ感染症の状況を見ながら地域との関わりを持つように努めます。 ・元気で明るい挨拶を続けます。	・コロナ明け2年目となるので、地域とのかかわりや地域への情報発信などに一層取り組んでいただきたい。 ・スタッフの努力は評価できると思います。	・コロナ化の中で、何か新しい施策を編み出して、事業所と地域との距離を縮める事が大切です。	・隣接自治会との交流に努める。 ・各学校（中学・高校）との連携を図り、視察見学、実習等の受入れに取り組む。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・コロナ感染症の状況を見ながら、利用者が地域の行事等に参加する様に取り組めます。	・インフルエンザ・コロナウイルス・マイコプラズマ肺炎のトリプルミックスの状況では、外部との接触はかなり難しいと思われる。	・利用者にとって、イベントへの参加、子供達との交流、動物達とのかかわり等が、心を和ませる癒しになると思います。	・各種感染症の発症状況を見ながら、地域の行事等への参加に取り組めます。 ・こども広場に参加する子供達との交流を図ります。

E. 運営推進会議を活かした取り組み	・ 定期的な開催を継続します。 ・ 事業所の活動内容や利用状況の報告を行い、委員の皆様から意見をいただきながら事業所運営に反映する事を継続します。	・ 運営推進委員としての役割を十分に果たしているとは思えない。	・ 会議を消防訓練や施設研修にからめるなど、推進委員に実際の活動を見てもらう機会があっても良いのではないかな。 ・ 運営推進委員として、事業所のスタッフや利用者との交流が必要だともいます。	・ 定期的な開催を継続します。 ・ スタッフとの交流（意見交換）等を通じて事業所の活動内容の把握を頂く取り組みを行います。
F. 事業所の防災・災害対策	・ 年2回の消防訓練（通報・避難・消火）を行います。 ・ 消防団活動を継続します。 ・ 災害時に備え、日頃から行政（福祉課）との連携を図ります。	・ 当事業所は、平成28年の台風7号によって引き起こされた災害時に、避難所としての役割を十分に発揮しました。	・ 当事業所は利別川沿いに立地しているため、越水の危険がゼロとは言えません。最悪の状況を想定したマニュアルの作成が必要だと思います。	・ 年2回の消防訓練（通報・避難・消火）や災害訓練を実施します。 ・ 消防団活動を継続します。 ・ 自然災害に備え、日頃から行政（福祉課）との連携を図ります。